

学級担任のまなざし 13

Okayama Prefectural Education Center

R2.6.24(Wed)

「子どもの良いところを見つけ、表現すること」

教員となって間もない頃は、「ちゃんとさせなくてはいけない」という思いが強く、子どもの「できていないところ」ばかりが目につき、それを正すことが最も大切な指導であると思いがちです。

ある担任は、四月に子どもたちと出会った後、すぐに名前を覚えることと、一人一人の良いところを多く見つけることに力を入れます。名前を覚えることは数日で終わりますが、良いところを見つけることは一年間続きます。それを記憶するだけでなく、毎日記録に残します。もちろん毎日全員を記録できるわけではありませんが、少しずつ積み重ねていくと、子どもの努力や個性が浮かび上がってきます。また、「最近この子の良いところを見つけしていないな」と、顧みることもできます。

担任の大きな役割の一つに、「子どもの良いところをその子に代わってアピールすること」があります。帰りの会などで良い行いをした子を取り上げることで、集団の中でその子の良さが認められていきます。保護者に向けても同様です。家庭訪問で、子どもの良いところを伝えてくれると保護者は嬉しいものです。後で、「こんなことができたんだって、先生言ってたよ」と言われると、子どもは直接褒められるより嬉しいかもしれません。

学期末には、個人懇談や通知表の所見など、子どもたちの良いところを担当がアピールする場があります。それらは子どもたちの「成長の足掛かり」となります。日々、子どもたちの良いところを見つけ、表現できるよう心がけることが大切です。